

第1回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日 時 令和2年9月30日（水）
開会時間 午前10時00分
閉会時間 午前11時30分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室
3. 出席者

【委 員】

和田久美子 会長
山田雅井 副会長
原田ゆう子 委員
青木弘 委員
川田瞳 委員
小川麻美 委員
安部川いづみ 委員
佐野千代子 委員
鈴木綾子 委員
桑原比呂美 委員
伊藤亜美 委員

【事務局】

佐野慎治 町民福祉部長
山口信彦 子育て支援課長
秋本篤史 子育て支援課副課長兼
子育て支援係長
木村美樹 子育て支援総合センター
副主幹
高橋正寿 保育園・幼稚園係長
齋藤裕太 保育園・幼稚園係主事

(欠席者)

小磯信一 委員
柳枝洋子 委員
富岡順子 委員

4. 傍聴者 4名

5. 配布資料

次第・委員名簿

- 【資料1】大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《令和元年度》（案）
- 【資料2】大磯町子ども笑顔かがやきプラン新規事業等の進捗状況について
- 【資料3】公立幼稚園認定こども園化の方向性について
- 【資料4】大磯町石坂卷子記念子育て支援センターの愛称について
- 【資料5】大磯町子ども・子育て会議規則

6. 報告事項

事務局より、本日の欠席委員の報告（小磯委員、柳枝委員、富岡委員。）

大磯町子ども・子育て会議規則第5条に基づき、委員から会長・副会長の推薦を伺う。前回の会議に引き続き、会長は和田委員、副会長は山田委員で決定した。

事務局より本日の会議は会議公開制度に基づき会議録を要旨概要として、発言者の個人名を載せずに町のホームページ等で公表することを報告。

和田会長より、本日の出席委員11名、大磯町子ども・子育て会議規則第6条第2項により委員の過半数となり会議が成立することを報告。

配付資料の確認（説明省略）

7. 議 題

- (1) 大磯町子ども笑顔かがやきプラン進捗状況の点検・評価《令和元年度》について
- (2) 公立幼稚園認定こども園化の方向性について
- (3) 大磯町石坂卷子記念子育て支援センターの愛称について
- (4) その他

1 開会

会長) これより令和2年度第1回大磯町子ども・子育て会議を開催いたします。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。この会議は、大磯町審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議は原則公開となっております。当会議につきましても公開対象となっております。一般公開されますのでご了承ください。

本日、現在、会議を傍聴したいという方が4名来られています。現在お待ちの傍聴者または会議途中からの傍聴者の入場を許可してよろしいでしょうか。

(異議なし)

では傍聴者の方の入場をお願いいたします。

(傍聴者入室)

2 議題

- (1) 大磯町子ども笑顔かがやきプランの進捗状況の点検・評価（令和元年度）について

《資料説明》

- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《令和元年度》（案）【資料1】
- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン新規事業等の進捗状況について【資料2】

(説明省略)

《質疑応答》

会長) ただ今のご説明の内容について、ご意見やご質問があれば挙手の上ご発言願いたい。

委員) 【資料2】の説明を聞き、子育て支援課の人員を考慮しても、これだけ多くの事業を進めていることに感心する。小学校長の立場からすると、新型コロナウイルス感染症の休業要請が出た時、昼間子どもを見ることができない家庭に対して、小学校と学童保育がうまく連携することができたと思う。朝の預かり事業や子育て支援センターでの支援等、大磯町内で連

携した子育て支援事業を実践できていると思う。

以上を踏まえて、2点質問がある。一点目は【資料1】の進行状況について、A（おおむね順調に進展している）・B（現状維持に留まっている）を合わせて、98.9%と説明を受けたが、子育て支援課として数値目標を持っていたのか。二点目に、数値目標を持っていない場合、Aの進捗状況16.7%をどのように捉えているか伺いたい。

事務局）一点目について、数値目標は立てていない。しかし、各事業において計画目標は立てているため、良い数値となるよう努めている。二点目に、進捗状況の評価のつけ方について検討の余地はあると感じている。担当課によっては、一度Aの評価となり、現状維持に留まるとBの評価を付けてしまう。そのため、一度Aの評価になると、再度Aの評価を取ることが難しい事業もある。ただし、Bの評価については、90ある事業を子育て支援課だけではなく、大磯町全体で取り組んでいる実績も考慮したい。一度Aの評価を受けた事業の取扱いについては、今後検討していきたい。

委員） 行政の仕事は、現状維持するだけでも、非常に負担が大きい。進行管理書のBの進行状況を見た人から、現状維持に留まっているだけという評価をもらうのは、非常に残念なことだ。そのため、行政から何らかの説明を添える等、検討したほうが良いと考える。

会長） 「子育て短期支援事業の充実」について、平成27年度からC（未着手または成果が上がっていない）の評価だが、今後の取り組みについて伺いたい。

事務局） この事業は、保護者が疾病等の理由で、一時的に家庭内において育児をすることができなくなった場合に、短期間預かりを行う「ショートステイ」、夜間の預かりを行う「トワイライトステイ」が含まれている。現時点では大磯町で着手すべき事業ではない。

また、平成30年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」において、不特定の預かりや夜間の一時預かりについて、未就学児の保護者の、7割が「利用しない」、8割が「必要としていない」、小学校就学児の保護者の9割が「利用しない」と回答している。

ただし、小学校就学児の保護者の1割が「利用したい」という意見もある。

現在、施設を整備する予定はないが、保護者からのニーズ、近隣自治体の現状を考慮し、進めていく。

会長） 皆さんよろしければ次に進みたい。

（特になし）

（2） 公立幼稚園認定こども園化の方向性について

《資料説明》

- ・公立幼稚園認定こども園化の方向性について【資料3】

（説明省略）

《質疑応答》

会長） ただ今のご説明の内容について、ご意見やご質問があるか。

委員） 自分の子どもは町立たかとり幼稚園に通っている。上の子どもは就学前に町立幼稚園に通っていたが、卒園後に民営化してしまい悲しかった。「子育てで選ばれる町」の対象は、働いている親だけが対象なのか。町立幼稚園と私立幼稚園を比較すると、月当たりの実費負担

徴収額が私立幼稚園の方が、10,000 円程度高いと思う。年間で考慮すると 120,000 円となり、働いていない家庭への負担が高くなる。今日の説明を受け、民営化の必要性は十分に理解しているが、私のような意見の保護者もいることを知ってほしい。

事務局) 現在、検討委員会を開催していて、町立幼稚園を理由に入園してくる児童がいることも承知しているため、今回のような保護者の意見も聞きながら進めていきたい。

また、令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化が開始し、3 歳から 5 歳児クラスの児童の保育料は 0 円となっている。話にあがった費用とは、教材費等の実費負担の部分と考える。公立幼稚園が民営化した場合の保護者の実費負担が必要以上に大きくならないように協議していきたい。

会長) 作る側と利用する側では意見の違いがあるだろう。今回のような意見が出ると、こども園の新設の貴重な意見となり、保護者の負担も減ることだろう。

会長) 他に、何かご質問等あるか。

委員) 幼児教育・保育の無償化が開始し、公立幼稚園と私立幼稚園の保護者への補助の財政負担は異なるのか。

事務局) 無償化の対象の範囲に関しては、公立幼稚園と私立幼稚園で違いはない。
ただし、無償化分の補填に関しては、私立幼稚園等に対しては施設型給付費の上乗せがある一方で、公立幼稚園に対しての補填はない。

会長) 他に、何かご質問等あるか。

委員) 以前、大磯町では第 2 子以降の保育料の無償化を行っていたが、幼児教育・保育の無償化が開始し、廃止されてしまった。制度が変わると保護者は混乱してしまう。

委員) 保護者の負担する費用についてはできる限り軽減し、公立の保育施設と私立の保育施設では違いがでないように、大磯町には取り組んでもらいたい。

事務局) 平成 27 年度に子ども・子育て支援新制度が開始し、大磯町が「子育てで選ばれる町」を実現するため、独自に第 2 子以降の保育料の無償化を開始した。令和元年度に幼児教育・保育の無償化が開始し、大磯町独自に補助をする部分について精査する必要があったため、現在は国の制度の範囲での補助に留まっている。保護者のニーズが多ければ、第 2 子以降の保育料の無償化や現在の制度から外れている施設に通っている保護者への補助、給食費の無償化等検討の余地はある。大磯町独自に補助する事業については、今後検討していく。
そのために、今回のような会議で意見を聞きながら検討していきたい。

会長) 他に、何かご質問等あるか。

委員) 幼稚園、小学校及び中学校は大磯・国府地区に 1 施設ずつあり、幼稚園から中学校までの連携が図られている。小学校で学校生活になじめない児童に対して、当時担任を担当していた幼稚園の教諭から意見を聞き、児童の特性を把握し、適した指導を実践できている。幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省と縦に異なる行政の組織編成の中で、これから小学校、中学校に進学する児童のことを考慮して、民営化の話は検討してほしい。

会長) 他に、何かご質問等あるか。

委員) 子どもが私塾まきばに通っている。勤務時間が基準以下のため、無償化の補助を受けることができていない。今回の資料には私塾まきばの名前がないことが気になった。保育所に入所できないから、私塾まきばを選んでいる人もいるため、とても疎外感を感じた。

事務局) 今回の説明や資料は、公立幼稚園の認定こども園化を進めるにあたり、大磯町の待機児童等の現状がどうなっているか、なぜ民営化する必要があるのかなどを知ってもらうことが目的であったため、私塾まきばについて触れなかった。

会長) 他に、全体を通し何かご質問等あるか。

(特になし)

会長) 今後も進捗状況については、会議の場で報告いただき、皆様の意見を伺いながら進めていきたいと思う。

(3) 大磯町石坂卷子記念子育て支援センターの愛称について

《資料説明》

大磯町石坂卷子記念子育て支援センターの愛称について【資料4】

(説明省略)

《質疑応答》

会長) 何かご質問等あるか。

(特になし)

会長) 「すくすく」と「きぼう」が同数だが、第一希望の票数が多い「すくすく」が良いと思うがいかがか。

(賛成多数)

会長) 子ども・子育て会議では、「すくすく」を推薦するため、愛称選考の参考にしてほしい。

会長) その他について事務局から何かあるか。

3 報告

事務局) 公立幼稚園認定こども園化については、この場での貴重な意見を伺い、検討会にて反映させていきたい。第二回の検討会の内容については、年明け頃に子ども・子育て会議にて報告させていただきたい。

会長) 他に何かあるか。

(特になし)

会長) それでは、全体のところで何かもう一度確認しておくこと等もなければこれで終わりにしたい。以上をもって第1回大磯町子ども・子育て会議を終了する。長時間にわたりご協力をいただきありがとうございました。

4 閉会

終了